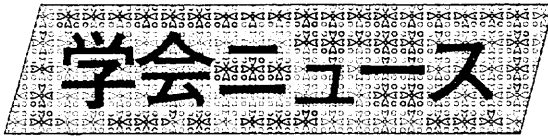


* 第2号 昭和53年11月1日

発行所 日本社会福祉学会
千代田区霞が関3-3-4 全社協内
TEL 03-581-4655



発行人 一番ヶ瀬康子
編集人 永田幹夫

日本社会福祉学会

◎ 第26回大会をおえて

田村健二

本年度の大会の会場校をお引き受けし、例年になく早い9月23・24日を大会日にさせていただいたことなど、その他いたらない諸点をふくめて、数々のご不便を皆様におかけしたであろうこと、恐縮致しております。にもかかわらず、のべ1,000名をこす方々が熱心にご参加され、700部用意したレジメ集もあわてて追加増刷するなど、嬉しい悲鳴とともに、心からの感激でございました。和やかさと厳肅さと熱気と、これらすべて、会員の皆様と理事会の厚いご理解、ご協力のたまものと、深く感謝申し上げます。

さて、大会運営上、印象に残りましたことを、若干記しますと、一つは、大会経費の問題ですが、約1,200名の会員にプログラムなど、やや重い資料のご連絡をしますと、1回に20万円余かかります(最低2回は必要)。レジメ集は、大学出入りの業者が大勉強してくれても、1部1,000円はかかります。手伝ってくれた学生達は、ほとんど無料奉仕をしてくれましたが、今後の開催校については、学会からの予算、大会参加費、そして運営のありかたなど、どここの大学でも無理なくやれるようなご検討が必要かと存じます。

二つは、学生の動員は、やはりふだんのゼミ指導に負うところが大きく、学生中に書道や華道の達人(?)がいたことも、殺風景でキレイとは申しかねる校舎に、せめてもの人の心と彩を添えたかに、存じています。懇親会の裏方だった大学OBの業者と、これら学生達の率先、献身的な活動は、まことに大助かりでありました。

最後に、本大会の共通テーマだった「日本における福祉的処遇の展開」は、制度政策論と臨床技術論、そして、大学研究機関と現業施設機関の交叉点にある問題、ここを深め、ここから広げ、かつ、その福祉的効果に現実的責任をもつことこそ、また、本学会の喫緊の展開点と、存じました。本大会を第一階梯として、今後への発展を切に祈ってやみません。なお、自由発

表とシンポジウムにおいて、討論の時間のあまりに少ないことと拡散的になることは、今後にくふうを要する反省点と存じました。

また逢う日まで……皆様のご健康とご活躍を心からお祈り致します。皆様、ほんとうに、ありがとうございました。

東洋大学教授・第26回大会準備委員長

※ 大会参加状況

東洋大学で把握された(参加費納入)人員は、会員663人、一般78人、計741人となりました。しかし、お弁当の売上状況その他の面から推定しておよそ500名程度の人が受付を通らずに参加していると思われ、延べ人数にして1,100名～1,500名の参加があったのではないかと推定しています。

※ 第27回大会についてのお知らせ

次回大会は愛知県立大学を中心に中部ブロックの各大学が協力体制をとり、開催されることになりました。日程については春の理事会において決定される予定ですので、追って会員の皆様には学会ニュース等でご連絡いたします。

次回理事会開催日程 昭和54年3月27日

※ 「社会福祉学」編集委員会が発足

学会の機関誌である「社会福祉学」の質的向上をはかろうと去る9月22日の理事会の席上で「編集委員会」の発足が提起され、9月24日の総会において決定されました。編集委員の皆様には会員の方々により良い学会誌をお送りするためにご活躍いただくことになり、さっそく、来る12月17日に第一回目の編集委員会が東京で開かれる予定です。

委員は以下のとおり各ブロック1名ずつ選出されました。

(敬称略)

北海道ブロック	永田勝彦	北星学園大学
東北 "	花村春樹	東北福祉大学
関東 "	小松源助	日本社会事業大学

自昭和53年1月 1日
至昭和53年9月10日

(退会者)

大久保 道 舟 (東北福祉大学)
安 部 満 枝 (大阪社会医療センター)
椿 啓 子 (大阪府立身体障害者福祉センター)

(死亡)

奥 山 典 雄 (岡山女子短期大学)
上 田 官 治 (仏教大学)

✻ 総会報告

9月24日の総会で以下の議題について決定承認されました。

1978年度 総会議案

第1号議案 昭和52年度決算報告
第2号議案 昭和53年度予算中間報告
第3号議案 昭和54年度予算案

その他報告事項

- (1) 学会員の移(異)動について
- (2) 次回大会会場について
- (3) 編集委員会の発足について

そのうち、ここでは昭和52年度決算書、昭和54年度予算案について次ページ以下のとおりで報告します。

昭和52年度 日本社会福祉学会 決算書

歳入決算額 5,511,406 円
 歳出決算額 3,061,806 円
 歳入歳出差引残額 2,449,600 円
 翌年度への繰越額 2,449,600 円

自昭和52年 1月 1日
 至昭和52年12月31日

歳入

科 目	予 算 額	収 入 済 額	差 引 増 △ 減	備 考
前年度繰越金	200,000	1,607,391	1,407,391	
会 費	2,300,000	3,110,500	810,500	
機関誌売上金	50,000	6,500	△ 43,500	
寄 附 金	1,000	0	△ 1,000	
雑 収 入	5,000	187,015	182,015	銀行利息
名簿印刷費積立金	450,000	450,000	0	
選挙管理費積立金	150,000	150,000	0	
歳 入 合 計	3,156,000	5,511,406	2,355,406	

(単位 円)

歳出

科 目	予 算 額	支 出 済 額	差 引 残 額	備 考
大 会 費	300,000	300,000	0	
名簿印刷費	600,000	538,350	61,650	
機関誌出版費	900,000	885,000	15,000	
部会還元費	230,000	237,500	△ 7,500	S51年度分還元金
事務費	300,000	354,790	△ 54,790	
印刷費	40,000	44,350	△ 4,350	
会議費	50,000	43,684	6,316	
通信運搬費	180,000	112,570	67,430	
出張旅費	250,000	350,100	△ 100,100	
選挙管理費	200,000	175,750	24,250	
雑 費	30,000	19,712	10,288	
予 備 費	76,000	0	76,000	
歳 出 合 計	3,156,000	3,061,806	94,194	

(単位 円)

昭和52年度 日本社会福祉学会会計監査の結果、本会計決算書に
 間違いのないことを承認します。

昭和53年3月27日

会計監査 田 代 不二男
 会計監査 高 沢 武 司

昭和54年度 日本社会福祉学会 予算書(案)

自昭和54年 1月 1日

至昭和54年12月31日

歳入

科 目	昭和54年度予算額	昭和53年度予算額	比較増△減	備 考
前年度繰越金	1,400,000	500,000	900,000	
会 費	2,600,000	2,300,000	300,000	1,300人×0.8×2,500円
機関誌売上金	50,000	50,000	0	
寄 附 金	1,000	1,000	0	
名簿印刷費積立金	200,000	0	200,000	
選挙管理費積立金	50,000	0	50,000	
雑 収 入	9,000	5,000	4,000	利息
歳 入 合 計	4,310,000	2,856,000	1,454,000	

(単位 円)

歳出

科 目	昭和54年度予算額	昭和53年度予算額	比較増△減	備 考
大 会 費	400,000	300,000	100,000	
名簿補正費	100,000	100,000	0	
名簿印刷費	0	0	0	
機関誌出版費	1,000,000	900,000	100,000	
部会還元費	360,000	230,000	130,000	
事 務 費	500,000	400,000	100,000	
印 刷 費	250,000	100,000	150,000	学会ニース 総会資料、請求書
会 議 費	250,000	100,000	150,000	理事會 2回 在京理事會 5回
通信運搬費	170,000	100,000	70,000	学会ニース 請求書、その他
出張旅費	400,000	300,000	100,000	
選挙管理費	0	0	0	
雑 費	20,000	20,000	0	
予 備 費	610,000	56,000	554,000	
名簿印刷費積立金	200,000	200,000	0	
選挙管理費積立金	50,000	50,000	0	
歳 出 合 計	4,310,000	2,856,000	1,454,000	

(単位 円)

※ 住所不明の会員がいます

以下にあげた会員の方々は転居先がわからず、郵便物がもどってきてしまいます。

皆様の近くに勤務されている場合、又、転居先をご存じの方はこちらに現住所をご連絡下さる様お願いします。

なお、住所、勤務先が移転した場合、又、姓名が変わった場合等の時は必ず、すみやかに事務局の方へご連絡下さい。

住所不明会員

昭和53年11月1日現在

北海道ブロック	上田 敏子
東北ブロック	平野 吉信
関東ブロック	石塚 孝雄、伊藤 祥子、井上 実、折橋 徹彦 久保 照子、久保 久子、多田 純子、鳥潟 歌代子 直井 道子、村田 恵子
中部ブロック	平野 功、四方 寿雄
関西ブロック	足立 富美子、桂 浩子、栗林 洋子、坂本 正子 佐光 乙二、成田 正一、西田 一雄、平田 佳子 藤野 竜一、自沢 政和、村山 幸輝、米田 正代
中国・四国ブロック	成瀬 玲子、森 法房
九州ブロック	高瀬 貞子、宮崎 俊策



後 記

学会事務局のある、ここ霞が関もあざやかに紅葉した銀杏の葉が道路をうめています。

大会が終わって1ヶ月余、ようやく残務処理もかたずき、学会ニュース2号をお届けすることになりました。

半年で80名もの会員が新たに増えていく一方、住所が変わっていて所在のわからない人、音沙汰のない人も増えております。

事務局との連絡を密にするためにもニュースになる様な近況報告や記事の投稿をお待ちしています。

(石 本)